

令和6年度

63期生

3年次シラバス

63期生 クラス 学籍番号 氏名

長野県農業協同組合連合会
佐久総合病院看護専門学校

シラバスについて

1. 本校で履修する分野は、基礎分野・専門基礎分野・専門分野に大別される。

これらの分野に、それぞれ規定の科目・単位・時間数が表記されている。

2. 1年次は主に基礎分野・専門基礎分野・専門分野の履修、2年次は主に専門基礎分野・専門分野の履修、3年次は主に専門分野の臨地実習を履修する。

3. 各科目は全て必修科目である。卒業までに3151時間・107単位全てを履修・修得しなければならない。

4. 講義は、時間割とシラバスを確認し臨む。

5. 記載内容は、科目名・講義開始時期・単位数・時間数・担当講師・科目目標・講義回数・主要内容・評価方法・使用テキスト・受講時の注意事項である。

6. 科目の評価は、授業途中での課題提出や講義終了後の筆記試験等で評価をなる。

7. このシラバスは、年度はじめに該当学年のものが閲覧できる。

8. 卒業後も使用する可能性があるため、各自で保管する。

2024年度（63期生・3年次）講師・試験一覧

2024年4月4日現在

教育内容	科目名	単位	時間	講師	配点
専門基礎分野	社会福祉	1	30	小坂宜靖	100
	関係法規	1	15	百瀬修久	100
専門分野	多職種連携	1	30	加藤二三和・医師 看護師他	100
	災害看護と国際看護	1	30	加藤二三和 院内講師	50
	統合演習	1	30	坂本静 他	100
	看護研究Ⅱ	1	15	鈴木文子	100
	合格への道☆	1	30	森泉美波・白田明美・内藤英子 坂本静・原田愛・中島正和	100

科目名	社会福祉	学年学期	単位数	時間数
		3 学年 前期	2	30
時間割表記名	社会福祉	講義担当教員 外部講師（オンライン）		
科目のねらい				
保健・医療・福祉に係る社会の動向を学び、生活者を支援する社会保障制度について学ぶ。 わが国の保健・医療・福祉行政の理念、制度、機能について学習する。				
学習目標				
看護師として求められる保健・医療・福祉行政の理念および社会保障の仕組みを理解する。 保健医療福祉の各制度とその根拠法について理解する 福祉の意味を学び、社会保障制度と社会福祉について看護に活用できる知識を学ぶ。				
ディプロマ・ポリシーとの関連性				
<input type="checkbox"/> 1. 感じ取る力 価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く <input checked="" type="checkbox"/> 2. 実践する力 専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度 <input type="checkbox"/> 3. 実践する力 地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 連携・協同する力 多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割 <input type="checkbox"/> 5. 成長する力 専門職業人としての自覚・自ら学び続ける				
授業の流れ				
回	学習内容	方法・必要なもの		
1	1.社会保障制度と社会福祉	講義		
	1)社会保障制度			
	2)社会福祉の法制度			
2	2.現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向	講義		
	1)現代社会の変化			
	2)社会保障・社会福祉の動向			
3	3.医療保障	講義		
	1)医療保障制度の沿革 2)医療保障制度の構造と体系			
	3)健康保険と国民健康保険			
4	4)高齢者医療制度	講義		
	5)保険診療の仕組み			
	6)公費負担医療 7)国民医療費			
5	4.介護保障 1)介護保険制度創設の背景と介護保障の歴史	講義		
	2)介護保険制度の概要			
	3)介護保険制度の課題と展望			
6	5.所得保障	講義		
	1)制度の仕組み 2)年金保険制度			
	3)社会手当 4)労働保険制度			
7	6.公的扶助	講義		
	1)貧困・低所得問題と制度 2)生活保護制度の仕組み			
	3)低所得者対策 4)近年の動向			
8	7.社会福祉の分野とサービス	講義		
	1)高齢者福祉			
9	2)障害者福祉	講義		
	3)児童家庭福祉			

10	8.社会福祉実践と医療・看護	講義
	1)社会福祉援助とは 2)個別援助技術	
11	3)集団援助技術	講義
	4)間接援助技術と関連援助技術	
12	5)社会福祉援助の課題	講義
	6)連携の重要性	
13	7)社会福祉実践と医療・看護との連携	講義
14	9.社会福祉の歴史	講義
	1)福祉史の枠組み 2)福祉史の3段階	
	3)前近代の諸相 4)近代の救済の諸相	
15	5)現代社会への構造変化と生活支援	講義
	6)戦後の社会福祉の再生	
試験		
事前学習・事後学習内容 テキストの該当する章を事前にしっかり読み込んでおくこと。社会福祉に関する新聞記事やニュースを、常に確認しておくこと。		評価方法 試験 100点
使用するテキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉 医学書院		参考文献
受講生へのメッセージ 将来、看護師として病院や地域で活動する際に総合的な視点をもって対処できるよう、各分野での社会保障・社会福祉に関心を持ち、知識を身につけられるよう学習しましょう。		

科目名 関係法規	学年学期	単位数	時間数
	3 学年 前期	1	15
時間割表記名 関係法規	講義担当教員 外部講師（オンライン）		
科目のねらい 看護実践に必要な基礎知識として、保健師助産師看護師ならびに関係する領域の法令について理念・目的・主要な行政施策を理解する。			
学習目標 国民の保健・医療・福祉に関する法律を学び、法律で規制されている看護師の業務や責任について学ぶ。			
ディプロマ・ポリシーとの関連性			
<input type="checkbox"/>	1. 感じ取る力	価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く	
<input checked="" type="checkbox"/>	2. 実践する力	専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度	
<input type="checkbox"/>	3. 実践する力	地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践	
<input checked="" type="checkbox"/>	4. 連携・協同する力	多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割	
<input type="checkbox"/>	5. 成長する力	専門職業人としての自覚・自ら学び続ける	
授業の流れ			
回	学習内容	方法・必要なもの	
1	1. 法の概念	講義	
	1) 法の概念 2) 衛生法 3) 厚生行政の仕組み		
2	2. 保健衛生法	講義	
	1) 共通保健法 2) 分野別保健法 3) 感染症に関する法		
	4) 食品に関する法		
	3. 労働法と社会基盤整備		
1) 労働法 2) 社会基盤整備			
3	1. 看護法	講義	
	1) 保健師助産師看護師法		
	2) 看護師等の人材確保の促進に関する法律		
	2. 医事法		
1) 医事法 2) 医療関係資格法 3) 保健医療福祉資格法			
4) 医療を支える法			
4	1. 薬務法	講義	
	1) 薬事一般に関する法律		
	2) 人などの組織を用いた医療関係法		
3) 薬害被害者の救済など 4) 麻薬・毒物など			
5	1. 環境衛生法	講義	
	1) 営業 2) 環境整備		
	2. 環境法		
1) 環境保全の基本法 2) 公害防止の法 3) 自然保護法			
6	社会保険法	講義	
	1) 費用保障 2) 年金 3) 手当		
7	1. 福祉法	講義	
	1) 福祉の基盤 2) 児童分野 3) 高齢分野 4) 障害分野		
8	まとめ 試験	課題学習	
事前学習・事後学習内容 事前にテキストを読んで受講してください。 国家試験問題の過去問題や模擬試験等でどのような問題が出題されるか、リサーチしましょう。		評価方法 試験 100点	
使用するテキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 看護関係法令 医学書院		参考文献	
受講生へのメッセージ 将来医療に携わる者として、地域の保健医療福祉に関する諸制度の概要と、それを規定する諸法令を理解する必要があります。法令を単に知識として学ぶだけでなく、なぜこのような内容になっているか、看護との関係はどうなっているかなど関連付けて理解してほしいと思います。			

科目名 多職種連携	学年学期	単位数	時間数
	3年次	1	30
	時間割表記名 多職種連携		
		講義担当教員 外部講師・専任教員	
科目のねらい 保健・医療・福祉システムにおける自らの役割及び他職種の役割を理解し、多職種と連携・協働しながら多様な場で生活する人々への看護を提供する基礎的な能力を養う。			
学習目標 多職種との連携・協働することの必要性を学び、保健・医療・福祉チームの一員としての看護師の役割を理解することができる。			
ディプロマ・ポリシーとの関連性			
<ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 感じ取る力 価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く ■ 2. 実践する力 専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度 □ 3. 実践する力 地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践 ■ 4. 連携・協同する力 多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割 □ 5. 成長する力 専門職業人としての自覚・自ら学び続ける 			
授業の流れ			
回	学習内容	方法・必要なもの	
1	【医療チームでの看護師の役割】 地域医療連携室について	講義	
2	医療チームにおける他職種について 調べ学習	グループワーク	
3	【他職種の理解】 成人期における理学療法士・作業療法士	講義・グループワーク	
4	言語療法士・放射線技師の役割		
5	【他職種の理解】 老年期における介護福祉士の役割	講義・グループワーク	
6			
7	【他職種の理解】 母性における助産師・栄養士の役割	講義・グループワーク	
8			
9	【他職種の理解】 小児における保健師・薬剤師の役割	講義・グループワーク	
10	【他職種の理解】 精神科における精神保健福祉士の役割	講義・グループワーク	
11	【他職種の理解】 在宅における医師・介護支援専門員の役割	講義・グループワーク	
12	【多職種連携の実際】	共同学習 グループワーク	
13	福祉系学校で学ぶ学生との共同学習		
14	自分たちの職種の紹介・役割		
15	チームとしての医療を支えることの必要性	グループワーク 成果発表	
試験			
事前学習・事後学習内容 下記のテキストの範囲を読み授業に臨んでください。		評価方法 グループワーク 発表内容 20点 課題提出 80点	
使用するテキスト 別巻 総合医療論 第7章 保健・医療・介護・福祉の近未来像の範囲		参考文献 リハベーシック コミュニケーション論・多職種連携論 医歯薬出版株式会社	
受講生へのメッセージ 看護職を取り巻く環境において、医療の高度化・複雑化、さらには地域包括ケアシステムの構築といった変化が起きており、保健医療福祉サービスに関わる様々な職種と協働する機会が増えている。この科目では、多職種の理解から他の医療系学生との共同学習を通じて医療チームとしての協働する力を学びます。			

科目名 災害看護と国際看護	学年学期	単位数	時間数
	3 学年 前期	1	20
時間割表記名 災害看護と国際看護	講義担当教員 専任教員 DMAT隊員 外部講師		

科目のねらい
 災害看護の基本的な知識を理解し、災害時に必要な医療・看護を学ぶ。
 国際看護について、基本的な知識を学び、佐久総合病院における国際看護活動を知る。

学習目標
 災害看護の基本的な知識を理解し、災害時に必要な医療・看護を習得できる

国際看護について、基本的な知識を理解する

ディプロマ・ポリシーとの関連性

<input type="checkbox"/>	1. 感じ取る力	価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く
<input type="checkbox"/>	2. 実践する力	専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度
<input checked="" type="checkbox"/>	3. 実践する力	地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践
<input checked="" type="checkbox"/>	4. 連携・協同する力	多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割
<input type="checkbox"/>	5. 成長する力	専門職業人としての自覚・自ら学び続ける

授業の流れ

回	学習内容	方法・必要なもの
1	災害看護とは 東日本大震災の事例 災害看護の定義 災害サイクル	講義 専任教員
2	災害の種類と被害・疾病の特徴 災害関連死とは	講義 ポストテスト①
3	災害に対する法制度 2つの法律 災害医療に関する国の政策と法律 被災者支援体制	グループワーク 専任教員
4	災害初期から中長期における看護活動 CSCATTTとは 被災者と支援者の心理の理解と援助 こころのケアとは	講義 ポストテスト②
5	配慮を必要とする人への看護 災害時要援護者とは	講義 専任教員
6	防災・減災マネジメント 災害時の国際援助 国際看護とは	講義 ポストテスト③
7	国際看護 佐久総合病院における国際看護活動	講義 外部講師
8	災害時に必要な医療・看護技術① 救急処置・搬送	講義・演習① 専任教員
9	災害時に必要な医療・看護技術②	講義・演習②
10	トリアージ・模擬訓練	DMAT隊員 専任教員
	試験	

事前学習・事後学習内容 授業のテキスト範囲を1回読み授業に臨んでください。	評価方法 ポストテスト15点 (5点×3) 筆記試験85点
--	-------------------------------------

使用するテキスト なし	参考文献 ・災害看護 (メディカ出版) ・知って考えて実践する 国際看護 医学書院
----------------	---

受講生へのメッセージ
 災害時に看護師としてどう動けるようにならなければいけないかを学んでいきます。災害拠点病院である佐久総合病院の災害看護活動をDMAT隊員からの講義、2回の演習を行います。また国際看護活動の実際について、外部講師から体験談をお聞きしますので楽しみにしてください。

科目名 統合演習	学年学期	単位数	時間数
	3学年 前期	1	30
時間割表記名 統合演習	講義担当教員 専任教員		
科目のねらい これまで学んだ基本的な看護技術の知識・技術をシミュレーション学習や事例を通して、対象のフィジカルアセスメントを実施し、対象に必要な看護援助を考え、主体的に学ぶ。			
学習目標 1. チームナーシングによる看護提供方式を理解し、統合実習での自己の行動がイメージ出来る。 2. リーダーシップ・メンバーシップを踏まえた適切な行動をとる必要性が再確認出来る。 3. 複数の模擬患者の優先順位と効率性を考慮した行動計画を立案することが出来る。			
ディプロマ・ポリシーとの関連性 <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 感じ取る力 価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く ■ 2. 実践する力 専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度 ■ 3. 実践する力 地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践 ■ 4. 連携・協同する力 多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割 ■ 5. 成長する力 専門職業人としての自覚・自ら学び続ける 			
授業の流れ			
回	学習内容	方法・必要なもの	
1	カリキュラムにおける統合演習の位置づけ 領域実習での自己の課題の振り返り	講義	
2～5	与薬の演習 1) 輸液の準備とセッティング 2) 様々な滴数計算・滴数合わせ 3) 輸液ポンプの操作 4) シリンジポンプの操作	演習	
6	複数患者の看護 緊急時の複数患者の看護	講義	
7	リーダーシップ・メンバーシップ	講義	
8	看護体制について 1) PNS 2) 固定ナーシング 等	講義	
9	多職種間連携について チーム間の伝達・報告	講義・GW	
10	夜間の看護について	講義	
11～15	複数患者の看護 多重課題状況下における看護の展開	講義・演習 講義・演習	
	試験		
事前学習・事後学習内容 講義で学んだ内容を復習しておくこと。		評価方法 学科試験100点	
使用するテキスト 基礎看護技術（南江堂）臨床看護総論 解剖生理学 基礎・臨床看護技術（医学書院）		参考文献 看護のためのシミュレーション教育 はじめの一步ワークブック 日本看護協会出版会	
受講生へのメッセージ 本授業では、既習の知識を基に気づきと判断を養い、これまで個別に学んだ看護技術を組み合わせ、簡単な状況設定下で展開できるまでのトレーニングを積んで臨地実習の準備をすることや、卒業前により臨床に近い形で、やや複雑な看護課題に取り組み、看護実践能力の習得につなげるため、主体的な姿勢を望みます。			

科目名 看護研究Ⅱ	学年学期	単位数	時間数
	3学年前期	1	15
時間割表記名 看護研究Ⅱ	講義担当教員		専任教員
科目のねらい 臨地実習で学んだ看護実践を基本構成に沿って看護研究（ケーススタディ）とまとめて発表する。また、さまざまな発表を通し科学的に思考できる能力を養い、自己の看護を深めるために学ぶ。			
学習目標 1. 看護研究のプロセスをもとにまとめることができる。 2. 看護研究へ興味・関心がもてる。 3. 看護の探求のための自己研鑽ができる。			
ディプロマ・ポリシーとの関連性 ■ 1. 感じ取る力 価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く ■ 2. 実践する力 専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度 <input type="checkbox"/> 3. 実践する力 地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践 ■ 4. 連携・協同する力 多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割 ■ 5. 成長する力 専門職業人としての自覚・自ら学び続ける			
授業の流れ			
回	学習内容	方法・必要なもの	
1	看護研究（ケーススタディ）のまとめ方1	講義	
2	看護研究（ケーススタディ）の発表方法	講義	
3	学校内（学年内）でのケーススタディの発表と聴講① 発表とクリティークの実施	発表・聴講	
4	学校内（学年内）でのケーススタディの発表と聴講② 発表とクリティークの実施	発表・聴講	
5	校内（代表）での看護研究発表会での発表と聴講① （発表と）クリティークの実施	発表・聴講	
6	校内（代表）での看護研究発表会での発表と聴講② （発表と）クリティークの実施	発表・聴講	
7・8	クリティークを用いたまとめ	講義・GW	
事前学習・事後学習内容 さまざまな文献や本を読みましょう。（文献検索システムも活用）		評価方法 ・抄録・レポート提出、発表（30点） ・クリティーク提出（40点） ・まとめ提出（20点）	
使用するテキスト ・わかりやすいケーススタディの進め方（照林社）		参考文献 ・文献検索システム 他	
受講生へのメッセージ ・看護の向上のために、看護研究をまとめることはとても大切なことです。これが、次に出会う方のためになることはあるはずです。より良い看護の提供ができるように、クリティークを用いて、よりよい看護の方向性を検討していく機会としていきましょう。			

科目名 合格への道☆	学年学期	単位数	時間数
	3学年	1	30
時間割表記名 合格への道☆	講義担当教員 国家試験対策・実習担当・領域担当		
科目のねらい 臨地実習で学んだ知識と国家試験に求められる知識を統合する			
学習目標 1. 実習に向かうために必要な学習が行える。 2. グループメンバーと協力し実習に必要な学習と技術の練習・確認ができる。 3. 実習で学習した知識をもとに、知識の定着を図る。			
ディプロマ・ポリシーとの関連性 <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 感じ取る力 価値観の尊重・協同の精神・豊かな感性を磨く・よりよい人間関係を築く ■ 2. 実践する力 専門職業人として倫理に基づいた責任ある看護・共感的態度 ■ 3. 実践する力 地域で暮らす人々・科学的根拠・健康状態に応じた看護の実践 ■ 4. 連携・協同する力 多職種と連携・協同・保健医療福祉チームの一員としての看護師の役割 ■ 5. 成長する力 専門職業人としての自覚・自ら学び続ける 			
授業の流れ			
回	学習内容	方法・必要なもの	
1	3年次領域実習・国家試験対策について	実習要綱	
2	1 クール目の実習まとめ	まとめ	
3	1 クールの伝達講習（知識の定着）	アンケート・申し送り・目標の整理 伝達講習	
4	2 クール目の実習まとめ	実習中に説いた問題の解説	
5	2 クールの伝達講習（知識の定着）	母性・小児・成人老年3・4	
6	3 クール目の実習まとめ	精神・在宅のGで3問：10分で	
7	中間試験	知識確認(全領域)	
8	4 クール目の実習まとめ	まとめ	
9	4 クールの伝達講習（知識の定着）	アンケート・申し送り・目標の整理 伝達講習	
10	5 クール目の実習まとめ	実習中に説いた問題の解説	
11	5 クールの伝達講習（知識の定着）	母性・小児・成人老年3・4	
12	6 クール目の実習に向けて(学習と技術確認)	精神・在宅のGで3問：10分で	
13	6 クール目の実習まとめ・伝達講習（知識の定着）		
14	統合試験前問題	知識確認（全領域）	
15	実習卒業試験（再試験あり）	知識確認（全領域）	
事前学習・事後学習内容 ・各領域の事前学習 ・各領域の事前演習ができる準備 ・各領域の事後の伝達講習の準備		評価方法 取り組み状況（個人・チーム）10/100点 知識確認試験（25/100点）×3 提出課題15/100点	
使用するテキスト	参考文献		
実習要綱 各領域で必要説明されている書籍・資料	各領域で必要と考えられる書籍		
受講生へのメッセージ 2年次のオリエンテーションを聞き、事前学習の計画を立て進めていきましょう。 看護に関しては、その時々ポイントを抑えられるよう学習をしていくことが大切です。知識をもって実習に向かうと、学習は深まり理解につながります。学んだ知識をクラスメイトに伝えることも知識の深まりとなります。自分の学んだ知識を伝えていきましょう。			